

人気芸人の芸名にみられる傾向とその推移

23B01190 廣川陽哉
東京工業大学 理学院

1.はじめに

当研究では、「人気芸人の芸名に傾向は存在するのか」をリサーチクエスチョンとし、また、どのような傾向・推移があるのかについて調査した。

2.方法

歴代M1決勝進出者88組(のべ179組)のコンビ名をまとめ、年別に①平均音数②文字種別割合③内容語数の計3つのデータを作成し、考察した。また、単語分解はMeCabおよび手作業で行った。

3.結果

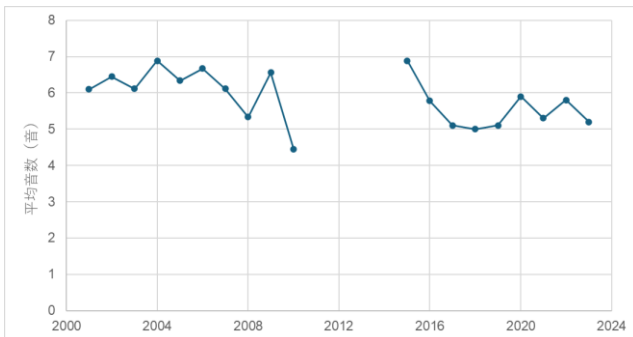


図1 年別M1決勝進出者のコンビ名の平均音数

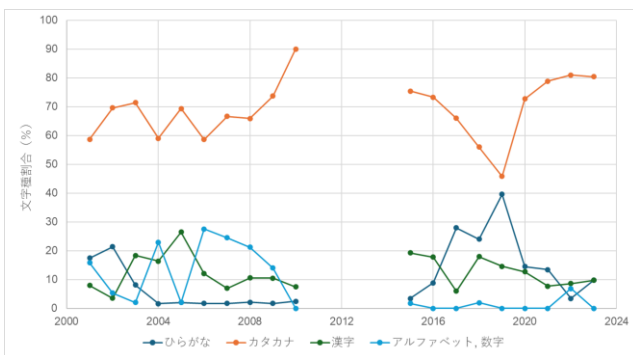


図2 年別M1決勝進出者のコンビ名の文字種別割合

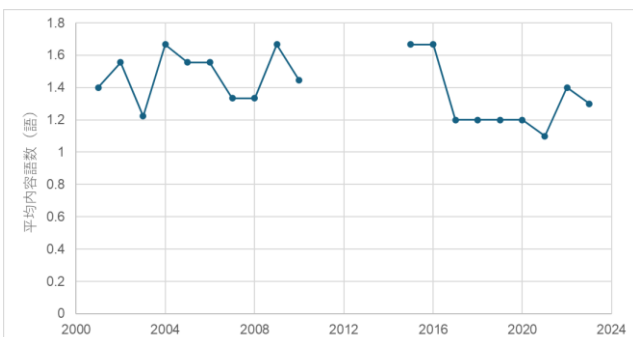


図3 年別M1決勝進出者のコンビ名の平均内容語数

4.考察

①音数

音数について、近年では短くなる傾向が見られた。また分散も近年は小さくなる傾向があり、これはより多くの芸人が短い音数の芸名を使っていることを示している。

原因については、後述する内容語数の変化の副次的な効果によるものだと考えられる。

②文字種別割合

文字種割合について、カタカナの割合は他と比べ非常に高かった。カタカナの割合は近年上昇傾向にあるように見えるが、これはアルファベットを使用している芸名が近年見られないことが起因していると考えられる。アルファベットを使用している芸名は音数に対し文字数が大きくなる傾向があるため、それを考慮すればカタカナの割合については大きな変化がないといえるだろう。

③内容語数

単語分解後のデータの考察の視点については、文献1第6節を参考にし、単語数のほかに、単語の前後関係および品詞の出現率についても考察する。

単語数は近年では少なくなる傾向が見られた。これは、「モグライダー」など複数の内容語を組み合わせた造語をコンビ名とする芸人が増加したからだと考えられる。

品詞の出現率について、1単語で構成される芸名には固有名詞が使われることが非常に多かった。また2単語以上で構成される芸名には、修飾語+名詞より名詞2つを並べたものも多く、1単語で構成される芸名と比べ固有名詞はそこまで多くはみられなかった。さらに単語の前後関係について、関連度の低い単語の組み合わせが非常に多くみられた。

これらの特徴は、さまざまな要因が考えられるが、共通する要因として近年におけるSNSの普及が考えられる。1つの普通名詞、あるいは関連する2単語で構成される芸名を利用すると、異なる内容がヒットする可能性がでてくるからである。これらの特徴は、環境の変化に対する適応の結果といえるだろう。

5.おわりに

コンビ芸人計88組のコンビ名を調査した結果、人気芸人の芸名に傾向は存在し、近年になるにつれ、音数・単語数が少なくなるなどの変化も見られた。

参考文献:

- 1) 上田裕一, 上田英代, 樺島忠夫, 村上征勝. 『源氏物語大成』のフルテキストデータベース. 情報知識学会研究報告会講演論文集, Vol.1, 1993, pp.33-36. https://doi.org/10.2964/jsikproc.1.0_33
- 2) 赤木円香. “笑いと世代: 上方漫才をめぐる”. 笑い学研究, Vol.3, 1996, pp.76-77. https://doi.org/10.18991/warai.3.0_76